

2021 年度事業報告書

認定特定非営利活動法人こむの事業所

1 事業の成果

新型コロナウイルスは、2021 年度においても就労支援事業収益に大きな影響を及ぼしました。スタッフ全員は一丸となって仕事に取り組むとともに経費削減に努め、収支は若干の赤字となりましたが、修繕費が例年になくかさんだことに鑑みれば、現状は収支均衡していると判断しています。

その中で、昨年度末には全員に0.7か月のボーナスが支給でき、目標の一つに掲げている「生活できる給与の実現」に一步近づくことができました。

しかし、めふプラザの移転に伴う給食数の減少や駐車場利用者の減少などによる収益減をカバーできていないために、就労支援事業の収支は昨年度に引き続き厳しい状況にあり、2022 年度には施設給食の提供先の拡大など収益を増やすことが必要となっています。

そのような厳しい経営状況ではありましたが、製菓部門では新商品の開発に取り組むとともにチョコレート販売を拡大し、レストランでは新規メニューの開発、清掃受託施設の拡充にも取り組むなど、新たな発展の兆しも現れています。

そのような新しいことへのチャレンジから、それぞれの職場のチームワークは強くなり、それはひとり一人の職能をたかめることにつながっており、2021 年度の取り組みは、目標「みんなが働き、楽しく暮らす」達成に向けた基礎づくりの年度であったと考えています。

住居支援においては、新型コロナの影響による家族間のストレスからの避難も見受けられ、シェルターとしての利用が、住居を使った人々の暮らしを守ることに確実につながっています。また 2021 年度においては、住居の利用を通してこむの事業所へ就労するという事例もあり、住居支援が就労につながる機能も果たされています。

(1) 障害者スタッフの一般就労

① 一般就労へのチャレンジ

就労を希望する障害者スタッフについて、社会福祉法人経営の施設において実習を行いました。一般就労には、つながりませんでした。

(2) ビル管理事業

① 宝塚市立老人福祉センター・大型児童センター等公共施設清掃の受託

宝塚市立老人福祉センター・大型児童センターの清掃は、安定的に継続しており、障害者スタッフ及び就労に困難を抱えた青年の職業能力の開発にも大きく寄与していることから、宝塚市と協議を進めていますが、新たな受託にはつながりませんでした。

② 新たな福祉施設清掃の受託

2022年2月から宝塚市内の療護施設はんしん自立の家の受託清掃を新たに開始しました。居住型の福祉施設清掃は日中の清掃であるため、早朝から従事する公共施設清掃と組み合わせることにより、一人当たりの労働時間を増やすことができるので、今後も増やす努力を続ける必要があります。

③ 駐車場管理

新型コロナ感染の影響から収益が減少しており、他の部門の収益が回復しつつあることに比べて回復が遅く、今後も収益の改善は見込めない状況にあります。

駐車場の収益は、障害者スタッフの賃金の貴重な財源であるため、その減少分を他の就労支援事業部門の収益を増やすことによって補っていかねばなりません。

食事サービス事業

① レストラン「こむず」の運営

レストラン「こむず」は開店から10年を超え、地域にも定着した感があり、新型コロナウイルスの影響からも徐々に回復しつつあります。厨房では料理長を中心にチームワークが発揮され、次々と新メニューを提供するとともに調理スタッフの養成にも取り組み、着実に成果を挙げています。

その成果を踏まえて、日本食のコース料理にチャレンジするなど、よりレベルの高いメニューを提供することを通して収益の拡大に取り組むこととしています。

② 給食受託及び配食事業

2021年3月末にめふプラザが移転したことに伴い給食調理受託が終了しました。その結果500万円以上の収益が減少し、それをカバーする新たな施設の給食調理受託を得ることはできませんでした。

また円安などの影響により食材の値上げが相次いでおり、その対策も求められています。

③ 菓子製造その他

順調に販売を伸ばしてきていた宝塚フィナンシェも宝塚大劇場の休演の影響を被り、大幅に売り上げが減少しましたが、理解ある企業のお歳暮として大量発注をいただいたことにより、製造販売に弾みがつきつつあります。

またOEMで生産されたチョコレートの自社ブランド販売も、営業努力により大幅に売り上げを伸ばすことができました。

加えて、マドレーヌや丁稚羊羹などの新製品にも取り組み、事業としての発展を期しています。

(3) こむの市場事業

① 生鮮野菜・加工食品の販売

2020年度から2021年度上半期にかけて市場の収支は、非常に厳しい状況が続きましたが、仕入れ商品の開拓や販売努力による売れ残り商品の削減などが功を奏して下半期には収支を改善することが

できるとともに、地域の農家とも新たな連携を模索しています。

(4) システム開発事業

① システム開発

システム開発について、納品したシステムのカスタマイズを受注しましたが、大きな実績にはつながりませんでした。

2022年度にはプレミア宝塚の会議室等の予約システム開発に取り組むこととしております。

(5) その他

① 住居利用

2021年度は、上半期において新型コロナ感染防止のために一部利用を制限したこともあり、利用には制約がかかりました結果年間の利用実績は、13件459日となっています。

利用に際しては、長期利用が見込まれる人でも最初は2週間の利用契約を交わし、以降は状況に応じて契約を更新しながら、必要最小限の利用期間となるよう関係者の協力も求めており、最長の半年間利用した人は、10年間で一人ということになっております。

また、大半の利用者がマナーを守っており、利用後の清掃作業もほとんど最小限で清潔な状態を維持できております。

② アトリエの利用

従前めふプラザがガラス工芸に使用していたブースから加工機器を撤収したので、今後は新たな作業スペースとしての利用が可能になっています。

現在アトリエ全体では、システム開発及びエビス面描き作業に使用するほか就業後の障害者スタッフの休憩と帰宅待機の間として活用しています。

また、こむの事業所から自立した障害者スタッフが、培ったスキルを活用してパソコン修理の工房として用いています。

③ 研修室、教室の利用

2021年度上半期には、新型コロナ感染防止措置に伴い、利用を制限せざるを得ませんでした。ワクチン接種も進んだことから徐々に利用も進みつつあります。

またいくつかのグループは、定期的に利用されており、レストランこむずの利用とあいまって、こむの事業所が地域の交流機能を果たしつつあることがうかがえます。

④ 障害者就労・生活支援センター事務所貸付

社会福祉法人宝塚さざんか福祉会が宝塚市の委託を受けて運営する障害者就業・生活支援センターについては、障害者等の就労について、2021年度は4,246件の相談を実施し、34人が就職しました。

⑤ 成年後見センター事務所貸付

NPO 法人宝塚成年後見センターが行う高齢者・障害者の法人後見等について、2021 年度は面談をはじめ福祉サービス利用支援など 1,265 件の支援サービスを行ったほか 20 人の法人後見を行いました。

2 事業実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	ビル管理事業	通年	宝塚市立老人福祉センター・大型児童センター、こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-8、9 宝塚市立健康センター 宝塚市小浜 4丁目 4-1 宝塚市立口腔保健センター 宝塚市小浜 2丁目 1-30 福祉コミュニティプラザ駐車場 宝塚市売布東の町 9 番地内	22 人	障害者 13 人 就労要支援 6 人	20,957
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	食事サービス事業	通年	宝塚育成事業所内厨房 宝塚市安倉西 4-1-7 こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	14 人	障害者 4 人 就労要支援 1 人	24,222
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	こむの市場事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	2 人	障害者 1 人	9,574
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	システム開発事業 他	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	2 人	障害者 2 人	2,609
障害者等の地域移行及び一時的に住まいの困難を抱える人への住居支援に関する事業	住居支援事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	1 人	16 件	273